

アントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会

2019年2月 冬号

1年の内の一番寒い時期を迎えています。会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。

去る2018年12月16日に、第12回 総会を終え、2018年度(2018/10月～2019/9月末)となりました。

10月には、今年度の事業として国際アントロポゾフィー看護ゼミナール基礎コース第3期(第1モジュール2018/10/27～11/2)が22名の参加者と共に始まりました。第2モジュールは、2019/4/27～5/3の予定です。第1モジュールに参加された、丸山恵子さんが、感想を寄せてくださいました。

本年度も、どうぞよろしくお願い致します。

アントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会 運営委員一同

新年度最初の会報に、アントロポゾフィー認定医(小児科)としてご活躍の、小林啓子先生にご寄稿いただきました。

『 体質タイプについて

～頭の大きい子ども・小さい子ども』

ひかりのつぼみ自由クリニック

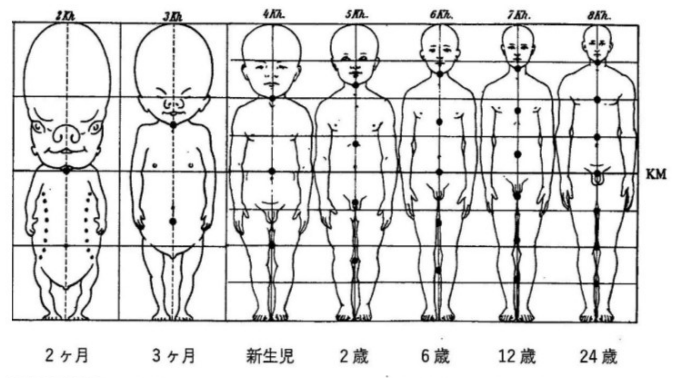
小児科 小林啓子

私は、友人を通してシュタイナー教育を知り、2000年に米国サクラメントのシュタイナーカレッジへ留学したのですが、カレッジの授業の中で、手当として中耳炎の玉葱湿布、咳のセージの吸入、高熱時の足のレモン湿布のことなどを習い、アントロポゾフィー医学と出会いました。最初は半信半疑でしたが、その後関心が高まり、医療と教育との繋がりやシュタイナー学校での校医の役割なども知りました。2004年の第一回のIPMTに参加したのち帰国、その後しばらくしてシュタイナー学校の校医としても関わらせていただくことになり、現在に至っています。

ご存知のように、シュタイナーは人間理解のために、四つの構成要素や三層構造、その他にも様々な視点から人間をみていますが、対極の特徴をもつ6つの体質タイプと6つの治療教育タイプについても言及しています。学校の子ども達を理解するのに役立つタイプのうち、今

回、頭の大きい子ども(大頭の子ども)と頭の小さい子ども(小頭の子ども)についての寄稿依頼を受けました。私の理解の範囲内ですが、まとめてみたいと思います。

成長に伴う身体の変化



人間の成長に伴う身体の比率の変化 A フーゼマン1992より

図にありますように、小さな子どもは大人より体に比べて大きな頭をしていて、成長に伴って頭の割合は小さくなっていきます。幼ければ幼いほど頭は大きく、年を重ねると頭は小さくなっていく。乳児は頭部の成長がまだ強くて形成力が弱い状態です。意識の目覚めである神経系の力はまだまだどろんでいます。成長するに従って、ぼんやりとした意識から目覚めた意識になり、頭が小さくなればなるほど意識が目覚めていきます。成長の力は熱の力です。乳幼児は頭の比率が大きいのは当たり前です。では第一七年期が過ぎた子ども達はどうでしょう？例えば、

皆さんの周囲にいる1～2年生の子ども達を思い浮かべてください。同じクラスでも、ぼんやりとまどろんでいて見た目も幼い子と、とても目覚めていて動きも活発どちらかというところに着かない子どもの両方のタイプがないでしょうか？ぼんやりして夢見がちの子が頭の大きい子、目覚めていて活発に動いたり遊んだりする男の子が小さい頭の子ということはありませんか？

この体質タイプは病気ではありません。病気ではありませんが、どちらかが過剰になると兆候が現れ、バランスが崩れます。大頭の子は、見た目も幼く、若い力が強く、その力が強すぎる場合には、形成する力、目覚めの力を強めバランスをとる必要があります。頭部が大きいということは、頭部に力が十分に誘導されて大きくなったというわけではありません。逆に、適切な時点で成長の力を制御されることがなく、未完成のまま留まっている状態と言えます。この頭部に留まった過剰な力が、中耳炎や副鼻腔炎といった炎症性の病気に結びつくこともあります。

一方小頭の子は、特に神経系において本来のタイミングより早期に成長を止めそのために未熟なままに留まってしまいます。熱や活力は頭部から四肢の動きに引き渡されてしまうとも言えるかと思えます。これが強すぎた場合は、成長を促す力、熱の力を高めるよう手助けする、そんなふうと考えられると思います。ここでもう少しそれぞれの特徴を見ていきます。

頭の大きい子；頭部に過剰な熱と活力が多すぎる。幼く見える。

- *夢見がち。まどろんでいる。
- *丸い顔。前額部が大きい。後頭部が膨らんでいる。手足は小さめ。体の他の部分も丸い傾向。すぐに赤みを帯びる。
- *ファンタジー豊か。ただし分析的な思考や判断の力は弱い。芸術的。暖かい感情。熱の傾向。
- *頭部に汗をかきやすい。
- *乳児期は一人遊びができる。

- *繰り返しは嫌いで少しずつ違う事をしたい。この傾向が強すぎると、
 - *はっきり考えることができなくなり、集中力は周囲に散りがち。注意散漫、不活発。
 - *夢見心地で気もそぞろ。
 - *中耳炎、副鼻腔炎、皮膚の炎症を起こしやすい。
- バランスをとるには、過剰な熱と活動性を頭部から四肢に誘導する。

頭の小さい子；早熟な非生命的な形成の力。実年齢よりも大人に見える。

- *目覚めている。冷めている。
 - *輪郭のくっきりした顔。額は狭く引っ込んでいる。大きく力強い手足。青白い。
 - *現実主義。分析的。抽象的概念把握が苦手。外交的、現実主義。詳細まで覚えている。技術への関心。どう言った仕組みになっているかを分解するのが好き。
 - *食が細く、ムラがあり不規則になる。消化器系が弱い。
- この傾向が強すぎると
- *多動、衝動的になる。すぐ苛立つ。落ち着きがない。衝動的。外的な事に気がそらされる。持続性がない。劣等感、挫折感を味わいやすい。
 - *日中は興奮気味で夜はなかなか眠れない。
 - *不眠、不安、チックなども。
- バランスをとるには、熱。代謝活動が強化される必要がある。

これらの傾向を別の角度から見ると、大頭の子は成長の力が強く働く春夏の力、小頭の子は冷たい目覚めと関係する冬の力が強いとも言えます。そうすると、大頭の子には感覚を目覚めさせる冷たい神経感覚系の力、小頭の子は温かい熱の力、代謝系の力を補ってあげる必要があると言えるでしょう。

こういった特徴から、シュタイナーや他の医師たちは普段の食事や家庭でできるケア、薬剤や療法についても言及しているので以下の表にまとめています。

	頭の大きい子 目覚めさせる。 いわば冬治療	頭の小さい子 代謝への働きかけ いわば夏治療
役に立つ 食事や 手当	根菜類 どちらかという塩味の食事 目覚めさせる。 朝頭を冷やす。冷たい水で拭く。	葉物 果実 回数の多い食事 やや少なめの甘いものも必要 お腹を温める。腹巻。 温湿布（Oxalis Camomillaなど） 夜間には足湯やオイルマッサージ等
薬剤や療 法など	・ Conchae(または、Calcium calbonicum) ・ Plumbu meta.praepとCuprum の内服など。 絵画療法；上からの形成力を刺激する 線描など。	・ 朝にArugentumw、夜にFerrum ・ Silicea の内服など。 ・ 銅軟膏 絵画療法；下からの構築力を刺激する エーテル的絵画。固い形を溶解するなど。

食事や足湯などの手当は即効性はありませんが、6週間から3ヶ月ほど続けてみて様子を見る必要があります。私個人は、上記に書かれた薬剤や療法全てに経験があるわけではありませんが、例えば、小頭の子で、手足が冷たく少食、あるいは食欲にムラがある子に時々出会いますので、お腹の湿布を勧めたりしています。大頭の子では、朝に顔や頭を冷たい水で濡らしたりタオルで拭く（主に夏ですが）ことも助けになったケースはあります。中耳炎や副鼻腔炎にかかりやすい大頭の子にも時々出会い、薬を処方しました。ただ薬剤や療法については、個別のケース

によって変わってくると思います。

他にも、宇宙的な子ども/地上的な子ども、ファンタジー豊かな子ども/ファンタジーが乏しい子どもといった、2つの対極の体質タイプがありますが、大頭の子/小頭の子といった肉体的な現れでなく、エーテル的あるいはアストラル的な現れなので、私にとってもまだまだ難しい視点です。そしてこれらの対極の体質のみかたも、必ずしも上記に挙げた特徴が全て当てはまるわけではありませんし、あくまで1つの見方です。ただ子どもを理解する一つの手段として役立つものと思います。

国際アントロポゾフィー看護ゼミナール

基礎コースに参加して

3期生 丸山恵子

リズムカルアインライブングの施術を受けたことだけが、私の事前知識だったため、最初は講義についていくことが大変な部分もありました。もっと基礎的な知識が必要だったのでは？と戸惑うこともありましたが、新たなことを学ぶことができるのはありがたいことであり、3期が始まる貴重なタイミングに予定があったことに感謝でした。とにかく密度の濃い1週間でしたが、講師のサーシャや先輩方の人柄も素晴らしく、刺激も受けました。不安定な人生の中ですが、第4モジュールまでなんとか継続していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。



アントロポゾフィー看護を学ぶ看護職の会

<http://www.anthro-nr.jp/>

e-mail : anthro-nr@rel-int.jp

会員の皆様からの投稿を随時募集しています

【編集部より】
編集部…村上典子
※この会報は会員の皆様と共に作りあげる機関紙として有機的つながりを大切にしたいと考えています。